

稲垣さんのご厚意で、白ネギの収穫体験をしました。たくさんいただいた白ネギは、おうちでどんな料理に変身したかな？



「赤オニだ～！助けて～」

「オニは～外！福は～内！」



子どもたちは、日々の楽しい遊びや、園外保育などでの自然豊かな体験をとおして、大藤こども園ならではの生活を満喫しました。そして遊びの幅も広がり、たくさんの感動を味わうことができました。友達が大好き、遊びが大好きな子どもたちが、人の温かさにも触れ、心身共に大きく成長したことを、大変嬉しく思います。新型コロナウイルス感染症予防のため、本年度も地域の皆様と触れ合う時間が十分に取れなかったことが、心残りです。次年度こそ、コロナが収束しますように…。

大藤こども園では3月15日に卒園式が行われ、24名の子どもたちが巣立っていきます。16日より幼稚園卒の園児は春休みに入ります。（保育園卒、預かり保育は通常通りあります。）

地域の皆様のご支援・ご協力ありがとうございました。

《大藤こども園 職員一同》

《 令和5年 大藤地区の次世代に向かって ～大藤地域づくり協議会会長 安達憲幸～ 》

大藤地区の皆さまにおかれましては日頃 当協議会活動にご理解、ご協力頂き誠にありがとうございます。私は2019年(令和元年)に会長就任し、もう4年も経過しました1区の安達です。

大藤地区の将来人口を皆さんに説明し4年が経過しました(10年後10%減、20年後25%減/2019年ベース予測) 主になる年齢層の会員が減り、組織活動/運営も従来のやり方では成り立たない危機感が就任当初の課題で、将来に向け持続可能な(SDGs)取組みに大きく舵を切り組織や活動を大幅見直しが急務と考え実施。

①大藤地域づくり協議会成立と活動移管

・組織について(兼務廃止と専任化及び一部活動団体の廃止と範囲縮小)

従来は大藤地区の自治会長が中心となった地区活動であり、自治会長の兼務が多く多忙でした。地域づくり協議会の立ち上げで部会長(専任)中心にした組織活動で、自治会長は担当部会員役員とした。保健委員会、青少年健全育成会、衛生委員は役割移行で廃止し、婦人部代表は自治会内のみとした。

・地区交流活動について

基本的に役員の負担を最小限にし、文化伝統の踏襲とコミュニケーションの地域交流の新しい場作り。スポーツ委員会においては、誰でも簡単に親しめる新しいゲーム感覚のニュースポーツ企画の採用。文化委員会も同様に、多彩な特技や趣味や文化活動をされている方や子ども達やPTA参加での企画。

・地区防災活動について

この地域は磐田原大地の中央北側に位置し災害に強い大きなメリットがあります。従って災害に対して身構えの違いや考え方に差が出てきてしまう事が課題でした。私達は地域防災訓練の目的を周辺地域を含め被災で生活困難になった避難者の受け入れに絞っています。

昨年台風15号では、豊岡地区の土砂崩れ・川氾濫や1号線南部地帯での川氾濫で大災害発生。避難所生活での各種区切りテントや非常食、非常用電源、非常用照明、簡易トイレ等を保有しており、このような道具を皆さんが取り扱えるよう毎年、防災部会が地域防災訓練で実践活用しています。地域世帯数の約15%の方が体験しましたが、50%位まで知識や体験経験者を増やしたいと思います

・福祉子ども部会の設立

高齢化傾向の中で特に、後期高齢者の一人暮らしや後期高齢者夫婦のみの生活者の増加が課題です。福祉委員会では、救急医療キットの配付を見直し毎年実施。212キット/2020年 464キット/2021年 597キット/2022年と常設数増加 今後は要支援者活動として大藤社協が新たな社会支援活動をスタートすべく準備にかかっています。乳幼児(未就学児)の親子対象の活動も各地区の子ども減少があり、今後、向陽地区活動に切り替えが必要。

②向陽学府小中一体校実現に向けた推進

従来は人の集まる場として小学校が利用され子どもを通じた交流の場であったが、子どもの減少と世界に羽ばたく人材育成環境の必要性を考え、多くの学友が通う新しい学校で新しいカリキュラムで、競い合いながら強さとやさしさを育み広い創造性が養われ、将来世界で活躍できる子ども達が育つ環境づくり。検討会・建設検討会を経て開設準備委員会が令和8年春開校に向け取組み中(かわら版等で展開) 現向陽中学校の3倍の通学生徒児童になります。学校周辺も含めた安全確保が今後、重要な課題です。

* 未来に向けた地域と行政と一緒に歩む一体感がこの大藤地区で出来ればと思います。

今後とも皆様のご理解とお力添えと知恵が必要です。宜しくご指導の程、お願い致します。

2023年3月10日

